

令和6年度（2024年度） 第1回函館市観光基本計画策定検討委員会 議事録	
開催日時	令和6年（2024年）9月27日（金）15:00～16:30
開催場所	函館市役所本庁舎8階 第1会議室
出席委員	奥平委員長，奥野委員，中島委員，飯野委員，金道委員，廣川委員，渡部委員，纒坂委員
欠席委員	古地委員
事務局ほか	観光部長，観光部次長，観光企画課長，観光誘致課長，観光振興課長，観光企画課企画担当主査，企画担当主任主事
議題	（1）函館市観光アドバイザー会議の役割 （2）函館市観光基本計画の目標値 （3）令和6年度事業

■ 議事概要

（1）函館市観光アドバイザー会議の役割

事務局より，本会議の役割について，資料1に沿って説明。

（2）函館市観光基本計画の目標値

事務局より，資料2に沿って説明。本計画の4つの基本方針で掲げた取組みの達成指標のうち，平均宿泊数，平準化指数の令和5年度実績について報告。また，目標値が未設定の基本方針3・4に係る達成指標について，計測方法と市民アンケートの設問（案）の説明を行った。その後，委員による意見交換および質疑応答を実施。委員の主な意見と質疑応答は以下のとおり。

- どういう事柄が起きて，その結果何が合ったかをチェックしていくというのが本会議の役割。目標値については，特殊事情も鑑みながら，評価を丁寧にしていく必要がある。
- 途中で目標を変えるということは出来るのか。
→（事務局）必要があればその都度協議してまいりたい。
- 市民アンケート設問（案）の8の項目について，概ねカバーされていると思うが，自由記述欄を入れてはいかがか。
- 市民アンケート設問（案）の10について，「まったく薦めたくない場合」，「五分五分で判断に迷う場合」，「ぜひ薦めたい場合」という文言は不要ではないか。
- 市民アンケート設問（案）の10について，0点を付けた方には，その理由を尋ねる設問を入れ

た方が良い。否定的な理由を把握することで、改善方法の検討の参考になる。

- ▶ アンケートについて、制作者も意図しない角度からの意見を得ることが出来ることがあるため、完全な自由記述欄を設けてはどうか。
- ▶ マイナスの意見を集約することで改善に繋げていけると思うので、要望や困ったことなども把握できると良い。
 - （事務局）11 の設問を再検討し、「その他で函館の観光に関してご意見があれば自由にお答えください」とし、例として、「推しスポットや体験」、「困ったこと」を記載するなど、様々な意見を得られるような方向で修正したい。
- ▶ 回答率の6.6%というのは低いのか。回答率を上げるための対策はあるのか。
 - （事務局）回答者に対するインセンティブは考えていない。回答率6.6%の事例は令和4年当時のものであり、現在は登録者数が増えていることから、より多くの回答が得られると予想している。今年度のアンケート調査で十分な回答が集まらない場合には、回答率向上のための対策を検討したい。

（3）令和6年度事業

事務局より、計画に紐づく令和6年度の取組みについて、資料3・4に沿って説明。質疑応答後、次年度の取組みに向けた委員による意見交換を行った。委員の主な意見は以下のとおり。

- ▶ ひとつ前の議題にも繋がるが、「観光基本計画を知っていますか」という設問がアンケートの中にあれば、その存在が市民に知れて、基本方針3・4にも繋がるのではないかと思う。アンケートの役割はただ意見を聞く場とするのではなく、観光基本計画の周知に利用出来たら良いのではないか。
 - （事務局）アンケートは観光への興味の有無に関係なく市公式 LINE の登録者に実施を予定しているため、観光への理解度を測る設問としては、全国的にも毎年話題となる「市町村魅力度ランキング」の上位に函館が位置していることを知っているか（函館市が観光都市であるという認識があるか）を尋ねる形とした。観光基本計画の市民への周知については、また別の手法で行っていきたい。
- ▶ 観光路線バスについては前年並みだが、供給出来ていない部分がある。一方、オーバーツーリズムについては市民生活に影響が及んでいるという認識ではなく、函館山山頂などごく一部の問題と認識している。今年に関しては「名探偵コナン」の映画の影響が絶大であり、来年も影響が続くことを期待している。貸切バス事業はクルーズ船やモルックの世界大会、アイアンマンジャパンなどの大型イベント、修学旅行等で好調であるが、引き続き乗務員が不足している状況。
- ▶ コロナ禍に市内に宿泊施設が増えたことにより、それぞれのホテルの稼働率は平均的に下がっていると思われる。昨今経費が上がる要因が多々ある中で、供給過剰により適正価格を付けられていないという問題がある。より多くの誘客により、稼働率を上げ、適正価格で提供出来る

ようにしていかなければならない。そのために他地域との競争に勝つようなプロモーション、マーケティング、ブランディングが重要。

- ▶ 今年の夏はコナン効果によりかなり好調であった。今年は宿泊料金が高いという声もあり、エアーが取れないなどで、来れなかったファンもいるので、ぜひ市で何かしら施策を打っていただき、早めに告知して、コナン効果を来年にも繋げてほしい。
- ▶ アメリカからの20歳前後の留学生の函館での過ごし方を見ると、例年、函館には海の街というイメージがあるようで、ビーチを求めてきている。また、円安の影響を受け、例年よりお金の使い方が良い。アニメ好きな学生も多いが、コナンの聖地巡りよりも御朱印集めなど日本らしいものを楽しんでいたようだ。また、情報収集には紙のパンフレットは見向きもせず、スマホを活用している。彼らに伝わる効果的な情報発信が必要。
- ▶ 市内事業者は、冬の集客を懸念している声が多い。また、アジアからのインバウンドが以前よりお金を使うことを抑えているようだ。個人客が多くなる中でお金の使い方が変わってきているのだと思われる。
- ▶ 去年はゴールデンカムイ、今年は名探偵コナンとアニメファンをターゲットとした取組みをしてきたと思うが、初音ミクも含め、今後もぜひ継続してほしい。
- ▶ 宿泊施設の単価が上がらないのは問題。近年新たに出来たホテルの単価が上がらないといけない。本来、3万円、5万円が適正単価のホテルが供給過剰により上げられない状態。また、五つ星クラスのホテルが出来れば、それがプライスリーダーとなり、市内全体の宿泊料金が上がるため、駅前にそういったホテルが誘致出来ると良い。
- ▶ 市内の宿泊施設では大人1名1泊食事付きで1万5千円前後が市場価格のような状態になっている。幅広いニーズを受け止められるバリエーションに富んだ宿泊施設があって、多種多様なお客様がいらっしゃることで宿泊人数が増えていくことが期待される。言い換えれば、現状は1万5千円程度の価格帯のお客様向けのマーケティングになってしまっているということではないか。高価格帯向けのマーケティングも必要。
- ▶ 今後、稼働率が上がれば、人手が足りないという問題も出てくる。働き手の確保として、学生の活用は重要。学生のバイト探しも時代によって方法が変わってきており、現在はインターネットが主流のため、適した情報発信が必要。
- ▶ 情報発信についてはSNSの活用は今後ますます課題となる。世代によって適したSNSの活用が重要。